

jp01061409/pn

L7 ANSWER 1 OF 1 WPINDEX (C) 2002 THOMSON DERWENT
ACCESSION NUMBER: 1989-117232 [16] WPINDEX
DOC. NO. CPI: C1989-051758
TITLE: Stick cosmetic material, for eye liner, lipstick, etc. -
contg. compounded ethylene -propylene copolymer with
m.pt. of 80-105 deg. C.
DERWENT CLASS: A96 D21
PATENT ASSIGNEE(S): (KOBA-N) KOBAYASHI KOSE KK
COUNTRY COUNT: 1
PATENT INFORMATION:

PATENT NO	KIND	DATE	WEEK	LA	PG	MAIN IPC
JP 01061409	A	19890308	(198916)*	4		<--
JP 2519469	B2	19960731	(199635)	3	A61K007-00	

APPLICATION DETAILS:

PATENT NO	KIND	APPLICATION	DATE
JP 01061409	A	JP 1987-214701	19870828
JP 2519469	B2	JP 1987-214701	19870828

FILING DETAILS:

PATENT NO	KIND	PATENT NO
JP 2519469	B2 Previous Publ.	JP 01061409

PRIORITY APPLN. INFO: JP 1987-214701 19870828
INT. PATENT CLASSIF.: A61K007-00
SECONDARY: A61K007-027; A61K007-032

⑨日本国特許庁 (JP) ⑩特許出願公開
⑪公開特許公報 (A) 昭64-61409

⑫Int.Cl.⁴
A 61 K 7/00

識別記号 廈内整理番号
P-7306-4C
J-7306-4C

⑬公開 昭和64年(1989)3月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭発明の名称 スティック化粧料

⑮特願 昭62-214701

⑯出願 昭62(1987)8月25日

⑰発明者 磯部 義雄 東京都北区光町48番18号 株式会社小林コーポレーション研究所内
⑱発明者 百瀬 重徳 東京都北区光町48番18号 株式会社小林コーポレーション研究所内
⑲出願人 株式会社 小林コーポレーション 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

明細書

1. 発明の名称

スティック化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 融点が80~105℃のエチレンプロピレンコポリマーを配合したことを特徴とするスティック化粧料。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、新規な化粧料に關し、その目的とするところは、保型性に優れ、容器との離型性が良く、しかも経時安定性、使用感の良好なスティック化粧料を提供することにある。

[従来の技術]

従来、スティック化粧料で使用されてきた固化剤としては、ミッロウ等の動物性ワックス、カルナウバワックス、キャンデリラワックス等の植物性ワックス、セレシン、マイクロクリスタリンワックス等の結晶性ワックスが挙げら

れ、これらを用いることでスティック化粧料の形状保持が行なわれてきた。

[発明が解決しようとする問題点]

しかしながら、上記の如き従来公知の動・植物性ワックス、結晶性ワックスは、固化力が劣る離型性を得る上で充分満足し得るものではなかった。また多量に使用した場合には、固化後三疊と密着して經り出しにくくなる等、いわゆる離型性の点でも悪さが認められるという欠点があった。また、従来のものでは、スティック化粧料を調製した場合に、表面光沢の低下や、経時的な発汗・発粉の発生等の問題もあり、三分満足しえないのが実情であった。こうしたことから、上記の如き問題がなく、安定性の良ハ製品を作ることはなかなか困難であった。

[問題点を解決するための手段]

本発明者等は、係る点に鑑み、保型性と離型性ニニ優れ、しかも経時安定性、使用感の点でも満足し得るスティック化粧料を得るべく努力

研究した結果、融点が特定範囲内にあるエチレンプロピレンコポリマーが固化剤として極めて有効であり、これを配合することで上記条件を満たす製品が得られることを見出し、本発明を完成させるに至った。

すなわち本発明は、融点が80～105℃のエチレンプロピレンコポリマーを配合したことを特徴とするスティック化粧料を提供するものである。

本発明において必須に使用されるエチレンプロピレンコポリマーは、上記の如く、融点が80～105℃のものであり、前記範囲内に融点を有するものであれば好適に使用できる。融点が80℃未満では固化力が劣り、製品の形状保持という目的の上で好ましくなく、また融点が105℃を超えると、実際に高温で使用しなければならない為、固化剤として使用しづらくなる。前記範囲内に含まれるエチレンプロピレンコポリマーは、分子量がほぼ300～800のものである。

溶剤等を必要に応じて適宜配合することで調製される。

[実施例]

次に本発明について実施例を挙げてさらに説明する。これらは本発明を何ら限定するものではない。

実施例[1]～[3]

まず、表1に处方を示す実施例[1]～[3]、比較例[1]～[3]のスティック状口紅を調製し、折れ強度、離型性、経時安定性、外観として表面光沢及び使用感について本発明の効果を検討した。結果を表1に示す。尚、表中、配合量は重量%で示す。

(以下余白)

本発明におけるエチレンプロピレンコポリマーの配合量は、好ましくは3～50重量%、特に好ましくは3～20重量%である。3重量%より少ないと固化力が得られず、また50重量%を超えて使用すると、固さが著しく増して使用感が悪くなることから、本発明にとって前記範囲内であれば充分量である。

上記エチレンプロピレンコポリマーは、通常の化粧料に固体油剤として用いることができるが、特にスティック化粧料に使用することにより、顕著な効果を得ることができる。

尚、本発明のスティック化粧料とは、スティック状の形態を有するものであり、口紅・リップグロス・ファンデーション・ほほ紅・アイシャドウ・アイライナー・アイブロウ等を挙げることができる。

そして本発明のスティック化粧料は、上記必須成分の他、スティック化粧料に一般に使用される油分、粉体、染料、高分子、香料、界面活性剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、防腐剤、美

表1

(处方)	実施例			比較例		
	[1]	[2]	[3]	[1]	[2]	[3]
(1) エチレンプロピレンコポリマー (融点83℃)	3	10	15	-	-	-
(2) キャンデリラワックス	17	-	-	15	20	30
(3) ポリブテン	10	10	10	10	10	10
(4) ジグリセリントリイソステアレート	48	58	53	53	48	38
(5) ミリスチン酸オクチルドデシル	20	20	20	20	20	20
(6) 著色顔料	2	2	2	2	2	2
評価項目	折れ強度(g) 離型性 経時安定性 表面光沢 使用感・べたつきのなさ ・なめらかさ	398 ◎ ◎ ○ ◎ ◎	272 ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	500 ○ ○ ○ × ○	103 × × ○ ○ ○	282 × × ○ ○ ○

(図法)

- A (1) ~ (5) を加熱溶解する。
 B A に (6) を加えて均一に混合する。
 C 脱気後、盛り出し容器に直接流し込み、冷却して成型する。

(評価方法)

折れ強度——レオメーター N R M - 2 0 0 2 J
 (不動工具鋼製) により測定した。

成型性——容器からの剥がれ具合を肉眼で判定した。

◎ : 非常に良い ○ : 良い × : 悪い

経時安定性 — 0 ℃、常温、 50 ℃のそれぞれにおいて 6 ヵ月保存した後、変形・発汗・発粉等の外観変化の有無を肉眼で判定した。

◎ : 非常に良い ○ : 良い × : 悪い

表面光沢——つやの程度を肉眼で判定した。

◎ : 非常に良い ○ : 良い × : 悪い

使用感——20名からなる女子パネルを対象

した場合 (比較例 [1]~[3]) は、その配合量が少ないと固化力が弱い為、折れやすく、べたつき感があることから使用感も劣るものであり、一方配合量を多くすると折れ強度が向上してべたつき感は減少するものの、容器からの成型性が悪くなり、また表面光沢の低下も生じてしまった。しかも、経時安定性にも欠けるものであった。

すなわち、本発明に係る実施例 [1]~[3] の口紅は、折れ強度・成型性に優れると共に、経時安定性・表面光沢・使用感も良好な、非常に満足すべきものであった。

実施例 [4] スティック状アイシャドウ

(处方)

(1) エチレンプロピレンコポリマー	10.0	(融点 93 ℃)
(2) 流動バラフィン	38.8	
(3) ワセリン	5.0	
(4) ソルビタンセスキオレート	1.0	
(5) マイカ	10.0	

とした使用テストにより塗布時のべたつきのなさ、なめらかさについて評価した。

評価は、べたつきがない (なめらかに塗布できる) と判定した人数で行ない。

15人以上の場合 : ◎

10~14人の場合 : ○

5~9人の場合 : △

0~4人の場合 : ×

として表わした。

表 1 の結果から明らかに如く、本発明に係る実施例 [1]~[3] のスティック状口紅は、折れ強度が高い為保型性に優れ、固化後容器からの剥がれ具合も良好であり、また経時安定性の面からも、高溫における変形や発汗、低温における発粉もみられず、満足すべきものであった。しかも、表面光沢の低下もなく、塗布時の使用感の点においても、べたつきがなく、なめらかな使用感を有するものであった。これに対し、固化剤としてキャンデリラワックスのみを使用

(6) 雪母チタン 20.0

(7) 着色顔料 15.0

(8) 香料 0.2

(製法)

A 成分 (1)~(4) を加熱溶解する。

B A に (5)~(8) を加えて搅拌混合する。

C 脱気して盛り出し容器に直接流し込み、冷却して成型する。

実施例 [5] スティック状口紅

(处方) (重量 %)

(1) エチレンプロピレンコポリマー 15.0

(融点 93 ℃)

(2) ワセリン 10.0

(3) スクワラン 5.0

(4) ジグリセリントリイソステア 65.6

レート

(5) 防腐剤 0.1

(6) 酸化防止剤 0.1

(7) 香料 0.2

(8) 酸化チタン 2.0

(8) 着色顔料

2.0

供することが可能となつたのである。(丸音)

以上

(製法)

- A (1) ~ (6) を加熱溶解する。
- B Aに (7) ~ (9) を加えて均一に混合する。
- C 脱気後、型に流し込み、急冷して固める。
- D Cを型から取り出し、容器に装填する。

上記の如くして得られた実施例[4]、[5]のスティック化粧料は、いずれも保型性、繰り出し容器あるいは型との離型性に優れ、しかも使用感も良好なものであった。

【発明の効果】

以上詳述した如く、本発明は、特定範囲の融点を有するエチレンプロピレンコポリマーを固化剤として配合することにより、その添加効果が十分發揮された新規なスティック化粧料を提供し得るものである。

すなわち、本発明により、従来になく、保型性に優れ、固化後容器との離型性が良く、しかも経時安定性、外観、使用感の面からも充分満足し得る、極めて有用なスティック化粧料を提

出願人・株式会社 小林コーワー